

## 2008-2009年の「アースデイとやま」における 参加者の環境に関する意識と会場の特性

松島美佳<sup>\*1</sup> 松村知佳<sup>\*1</sup> 横畑泰志<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup> 富山大学教育学部

<sup>\*2</sup> 富山大学理工学研究部理学領域・アースデイとやま実行委員会

## Environmental attitude of attendants and features of sites of the Earthday Toyama in 2008 and 2009

Mika Matsushima<sup>\*3</sup> Chika Matsumura<sup>\*3</sup> Yasushi Yokohata<sup>\*4</sup>

<sup>\*3</sup> Faculty of Education, University of Toyama

<sup>\*4</sup> Graduate School of Science and Engineering, University of Toyama

### 1. 緒言

環境に対する配慮に社会的な関心が集まる現在、国内外の各地で様々な環境啓発行事が行われている。その一例として、1970年のアメリカ合衆国での開催に端を発する「アースデイ」は、「人類の生存基盤である地球環境に感謝し、その保全を訴える祭典」として1990年以降に全世界に広がり、毎年百数十箇国で2億人の人々が参加する国際的なイベントとなっている<sup>1</sup>。日本でも毎年多くの地域で、市民団体を中心に企業や行政も含む1000を超えるグループが参加して開催され、それらが開催地ごとに自主的に組織する実行委員会によって運営されている。2010年の例では、アースデイ・ジャ

パンのホームページ<sup>2</sup>上に登録されているものだけで43の地域で、数多くの関連団体や個人の参加のもとに、多様な形態の「アースデイ〇〇」が実施されている。それらはアースデイ本来の目的である環境問題に関する市民への啓発を行うとともに、環境系以外の団体も含めて各地域の市民団体の幅広い横のつながりを確保し、1995年の阪神淡路大震災、2011年の東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故のような大規模災害が発生した場合には、その支援活動の拠点としても機能するようになっている。例えば2011年の「アースデイとやま」では富山県内の被災者支援団体が中心的に参加し、県内に避難していた被災者の招待や募金活動を行った。しかし、一般市民の環境に関する意識の全般的な向上により、さらに高度で多様な情報の提供が求められてき

<sup>1</sup>ジョン・マコーミック．1998．『地球環境運動全史』（石 弘之・山口裕司 訳）．岩波書店．

<sup>\*1</sup>現所属 松島：富山市役所企画管理部  
情報統計課、松村：富山市在住

<sup>2</sup> <http://www.earthday.jp/earthday/index.php>、  
最終確認日 2012年1月25日

ていることや、震災・原発被害への対応の拡大、財政・福祉問題の深刻化など様々な問題への対応が必要になっていることにとともに、アースデイをはじめとする様々な環境啓発イベントのあり方にも常にさらなる変革が求められており、多様な参加者の環境意識や、実施状況と会場の特性とのつながりなどについて客観的に分析を行うことが必要になっている。また、そのような分析の結果を公表することは、他の環境啓発イベントなどの参考にもなるであろう。著者らは、2008年と2009年に行われた「アースデイとやま」において参加者（一般来場者および出店・出展者）および非参加者を対象としたアンケート調査を実行委員会および多数のボランティアの協力のもとに実施し、それらの点について分析を行ったので、結果を報告する。

なお、本論文ではアースデイの参加団体による祭典当日の屋台やフリーマーケットなどの物販行為を「出店」、パネル展示や写真展などによるアピールを「出展」（書籍などの物販を含む場合があるが、主たる内容とはなっていない）と表現する。

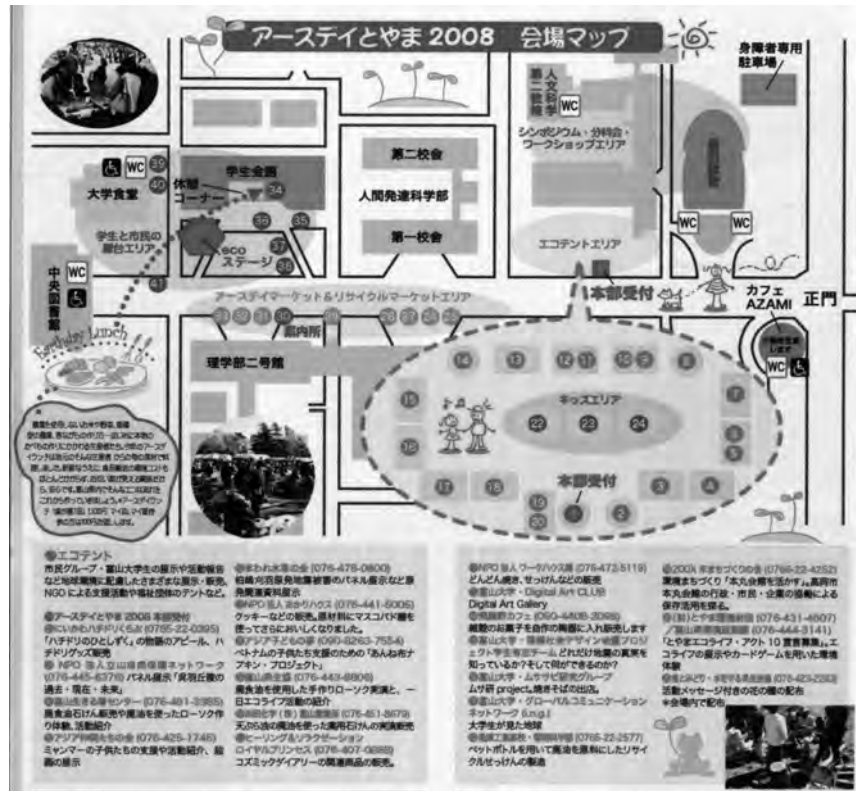


図 1. 「アースデイとやま 2008」パンフレットの一部分

## 2. アースデイとやまについて

富山県でも、1991年から一般市民が中心となって主催・運営する「アースデイとやま」が、富山市民プラザ、富山城址公園、富山市ファミリーパークなどの会場で毎年開催されている。第1回は1991年4月に3日間、富山市民プラザで開催され、その後例年、講演会やシンポジウム、フリーマーケット、体験型企画などが実施されている。

「アースデイとやま 2008」は、2008年6月15日（日）、10:00-17:00に開催され、初めて富山大学五福キャンパスを会場とし、「学びあう、育ちあう、未来をつくる」をテーマに市民と大学（学生、教職員、大学生協関係者）が共に創り上げる「地球を考える学園祭」（アースデイとやま 2008 パンフレット（図 1；アースデイとやま実行委

員会ホームページ<sup>3</sup>より)として開催された。事前の広報として、ポスターを五福キャンパス内および大学周辺などの場所に掲示し、案内を富山市内の小中学校、五福キャンパス周辺の富山大学生が住むアパートなどに配布するなどした。シンポジウム、特設ステージでのライブ・ダンス、分科会、ワークショップ、屋台などの出店、パネルを用いた展示などを行った。学生および一般市民による出店(展)はキャンパス正門から中央図書館にかけてのメインストリートの一部、学生会館前広場、共通教育棟前駐輪場にテントを立てて行われた(図1)。参加者数は5000人前後と推定されている<sup>4</sup>。

「アースデイとやま2009」は2009年4月25日(土)～26日(日)にJR富山駅北のとやま環水公園で開催された。自転車や市内電車の活用など将来の都市交通システムに注目して「できるわ、めぐる輪、つながる環」をテーマとし、25日にはトークコロシウム「循環社会と健康デザイン」、シンポジウム「こうしていかんまいけ、未来の交通システム」などが行なわれた。26日にはとやま環水公園の広い敷地を会場として活用し、自転車企画、学生環境フォーラム、リサイクルマーケットなどを実施する予定であったが、当日は雨天と強風に見舞われ、行事の大半は会場の一角にあった建物(北日本放送株式会社入船別館)内に会場を変更して行われた。事前の広報としては、富山市を中心に、県内全域でポスターの掲示や小中学校などへのチラシの配布が行われ

た。参加者数は推定されていないが、2008年度を大きく下回ったと考えられる。

### 3. アンケートの対象および実施方法について

#### 3.1. 一般来場者に対するアンケート調査

「アースデイとやま2008」、「アースデイとやま2009」において、学生によるボランティアスタッフが来場者に対する対面式のアンケート調査を行った。いずれもほぼ同じ内容で、以下の13の質問を行った。大部分の質問は回答者が選択肢から1つを選ぶ形で行ったが、質問の内容によっては、一部に複数回答可能な質問、ならびに記述形式の質問を設定した。最後に回答者の属性(性別、年齢、職業)を問う質問を設けた。問1、4-6、8の選択肢は「結果」の本文中または各表に記載した。

問1. 「アースデイとやま2008(または2009;以下同様)」があることを、何でお知りになりましたか?

問2. 今まで「アースデイとやま」に参加されたことはありますか?(はい/いいえ;はいと答えた方のみ-「アースデイとやま」にはどのくらい参加されていますか?)

問3. 「アースデイとやま2008」の会場が富山大学(またはとやま環水公園)でよかったと思えますか?(はい/いいえ、理由もお知らせください)

問4. ご自宅から会場まで、どのような方法で来られましたか?

問5. ご自宅から会場までの距離はどのくらいですか?

<sup>3</sup><http://earthday-toyama.org>、最終確認日2012年3月9日

<sup>4</sup>横畑泰志. 2008. 「集中連載・アースデイが大学にやってきた -後編-」. 『立山自然保護ネットワークだより』7: 2-4.

- 問 6. 会場でのどのくらいのお時間を過ごされます(過ごされました)か?
- 問 7. 「アースデイとやま」には毎年違ったテーマがありますが、今回のテーマをご存知でしたか? (はい/いいえ)
- 問 8. ご自分は環境(問題)にどのくらい関心があると思われますか?
- 問 9. 「アースデイ」への参加以外に、日ごろ環境に関する活動をされていますか? (はい/いいえ)
- 問 10. 面白かった、またはためになったと思われる企画をいくつでも○で囲んでください。また、つまらなかった、またはためにならなかったと思われる企画があればいくつでも×をつけてください。(選択肢は省略)
- 問 11. 今後の「アースデイとやま」に期待されることがあればお書きください。
- 問 12. その他に、「アースデイ」と「アースデイとやま」についてお感じになったことをご自由にお書きください。
- 問 13. あなたの性別、年齢、職業についてお答えください。

### 3.2 出店(展)者に対するアンケート調査

2008年6月15日(日)に「アースデイとやま2008」において出店、出展、分科会を行っていた団体の代表者31人に対し、2008年11月11日に質問用紙と回答用紙をFAXにより送付し、同月末日を締め切りとしてFAXで返信してもらった。全部で15の質問を行い、大部分の質問は回答者が選択

肢から1つを選ぶ形で行い、質問内容によっては一部に複数回答可能な質問ならびに記述形式の質問を設定した。最後に回答者の属性(性別、年齢、職業)を問う質問を設けた。

- 問 1. 今回の「アースデイとやま」では、どのような出店(展)をされましたか?
- 問 2、6、8-13、14-16. (それぞれ1.の問1、問3、問4-9、11-13と同じ)
- 問 3. 今まで「アースデイとやま」に一般参加者として参加されたことはありますか? (「はい」と答えた方のみ-「アースデイとやま」にはどのくらい一般参加されていますか?)
- 問 4. 今まで「アースデイとやま」に出店(展)者としてどのくらい参加されていますか?
- 問 5. 今回の「アースデイとやま」に出店(展)してよかったと思われますか? 理由もお答えください。
- 問 7. 来年の「アースデイとやま」は別会場での開催になりそうですが、何年か後に再び富山大学で開催されることになった場合、また出店(展)したいと思われますか?

### 3.3 非参加者に対するアンケート調査

2008年10月9日の五福キャンパスにおける教養教育の講義「環日本海」の受講学生(50人)に対し、講義の最後にアンケートを実施した。全部で5つの質問を行い、大部分の質問は回答者が選択肢から1つを選ぶ形で行い、質問内容によっては一部に記述形式の質問を設定した。最後に回答者の属性(性別と年齢)を問う質問を設けた。

表 1. 一般来場者に対するアンケートの回答者の属性

項目	属性	回答者数		項目	属性	回答者数	
		2008	2009			2008	2009
性別	男性	94	50	職業など	小学生以下	3	0
	女性	98	18		中学生	3	0
	無回答	7	12		高校生	5	1
年齢	10歳未満	3	0		大学生など	53	24
	10代	43	17		会社員	62	20
	20代	49	11		公務員	7	3
	30代	48	23		自営業	10	6
	40代	30	7		主婦	33	2
	50代	19	4		その他	15	3
	60代	1	5		無回答	8	21
	70歳以上	2	1				
	無回答	4	12	合計		199	80

回答者に「アースデイとやま 2008」への参加の有無を記述してもらい、参加者は後で集計から除くこととしたが、回収後確認すると、すべての回答者が不参加であった。

- 問 1. 「アースデイ」について何かご存知ですか？
- 問 2. 今まで「アースデイとやま」に参加されたことはありますか？（「はい」と答えた方のみ-「アースデイとやま」にはどのくらい参加されていますか？）
- 問 3、4、5 はそれぞれ 1. の問 5、8、9 と同じ
- 問 6. あなたの性別、年齢についてお答えください。

#### 4. 結果および考察

##### 4.1 一般来場者に対するアンケート調査の結果

ここでは、主に 2008 年と 2009 年の比較を中心に、一般来場者へのアンケートの結果を報告する。2008 年には 199 名、2009 年には 80 名から回答が得られた（表 1）。

2009 年の回答者は性別においては男性が有意に多く（無回答を除外、自由度=1、 $\chi^2=12.65$ 、 $P<0.01$ ）、年齢においては主に 40~50 代が少なかったが、有意ではなかった（10代未満と 10代、40代と 50代をそれぞれ合一、自由度=3、 $\chi^2=5.08$ 、 $P>0.05$ ）。回答者の「職業」は有意に主婦が少なかった（その他および無回答を除外、主婦以外を合一、自由度=1、 $\chi^2=6.50$ 、 $P<0.05$ ）。これらは 2009 年の会場が住宅地から距離を置いた場所であったことが一因と考えられる。2008 年の会場が五福キャンパスであったことから、2009 年の回答者は大学生等の割合が減少すると予想されたが、その割合に有意差はなかった（その他および無回答を除外；2008 年：30.1%；2009 年：

42.9%；専門・短・大学生等以外を合一、自由度=1、 $\chi^2=3.11$ 、 $P>0.05$ )。その一因として、前年の影響で2009年も学生が多く参加した、あるいは調査者の多くが大学生のボランティアだったため、同年代の若者にアンケートへの協力を頼み易かったと考えられる。

以下に各質問への回答結果を示し、両年の違いを中心に分析する。両年間で回答者の男女比が有意に異なり、年齢構成についても異なる傾向があったため、厳密には分散分析などによるそれらの影響の除去が必要であるが、2009年の回答者数が少ないため行わなかった。ただし、一部の質問を除き回答傾向の男女差、年齢差を比較した。

問1.「アースデイとやま2008(または2009)」があることを、何でお知りになりましたか？

この設問の回答(表2)の選択肢には、マスメディアとして「新聞」など5項目、地域的なメディアとして「チラシ」、「回覧板」、両者の中間的なものとして「ポスター」、個人的情報として「家族」、「友人・知人」、さらに「その他」の11項目が存在した。マスメディアに依存していた回答者の割合は2008年が192人中23人(12.0%)なのに対して、2009年は68人中18人(26.5%)と倍増していた。地域的なメディアや、家族や知人・友人といった個人的な情報に依存していた割合は、いずれも逆に2008年のほうが高い傾向にあり、両年の間には統計的にも有意差がみられた(新聞から雑誌まで、チラシから知人・友人までをそれぞれ合一、ポスター、その他を除外、自由度=1、 $\chi^2=7.93$ 、 $P<0.01$ )。これは多数の学生が日常的に集まる場所であり、また住宅街

の中にある五福キャンパスと、休日などに不特定多数の訪れる場所であるJR富山駅裏のとやま環水公園の間の、地域内のコミュニケーションの頻度の違いによるところが大きいと考えられる。

表2. 問1への回答(年間の比較のみ)

選 択 肢	2008年	2009年
マスメディア		
新聞	4	5
テレビ	0	4
ラジオ	1	4
インターネット	12	5
雑誌	6	0
計(%)*	23(12.0)	18(26.5)
地域的なメディア		
ポスター(%)*	18(9.3)	6(8.8)
チラシ	49	11
回覧板	0	1
計(%)*	49(25.5)	12(17.6)
個人的な情報		
家族	11	6
友人・知人	91	26
計(%)*	102(53.1)	32(47.1)
その他	20	21

\*百分率は「その他」を除外して計算

男女および年齢群間の比較(表3)では、2008年において女性が地域的なメディアを、20代以下が個人的な情報を利用していることが多く、大学内やその周辺地域での宣伝活動を反映していると考えられる。

問2. 今まで「アースデイとやま」に参加されたことはありますか？

「はい」と答えた人は、2008年には60人(70%)、2009年には29人(60%)であ

表 3. 問 1 への回答 (男女および年齢群間の比較)

選 択 肢	2008							2009								
	男	女	無回答	二〇代以下	三〇・四〇代	五〇代以上	無回答	計	男	女	無回答	二〇代以下	三〇・四〇代	五〇代以上	無回答	計
マスメディア	12	11	0	7	12	3	1	23	9	6	3	3	11	1	3	18
ポスター	9	9	0	11	4	2	1	18	4	1	1	1	3	1	1	6
地域的なメディア	17	30	2	17	25	6	1	49	8	1	3	1	6	2	3	12
個人的な情報	57	43	2	62	29	10	1	102	23	5	4	6	16	6	4	32
その他	7	10	3	7	11	1	1	20	12	7	2	18	1	0	2	21

り、有意差は見られなかった (自由度=1、 $\chi^2=1.43$ 、 $P>0.05$ )。「いいえ」は 2008 年に 139 人、2009 年に 48 人、無回答は 2009 年に 3 人のみであった。

問 3.「アースデイとやま 2008(または 2009)」の会場が富山大学(またはとやま環水公園)でよかったと思われませんか?

この質問に「はい」と答えた人は、2008 年には 183 人(92%)、2009 年には 60 人(75%)で、後者が有意に少なかった(表 4; 自由度=1、 $\chi^2=11.12$ 、 $P<0.01$ )。会場そのものや当日の天候が異なるため、比較は難しいが、満足度は 2009 年のほうが低かったと考えられる。2008 年の調査で「はい」と答えた理由として、「近い」や「広い」、「交

通の便」、「人が集まりやすい」などが挙げられた。しかし、少数ではあるが「いいえ」と回答した人もおり、その約半数が過去に開催された別会場での「アースデイとやま」に参加していた。よくなかった理由として「駐車場が狭い」、「車で来ると不便」、「会場が狭い」、「人が来にくい」などがあり、よかったと答えた人と対照的な理由もみられた。これは五福キャンパスが公共交通機関を使えばアクセスしやすいが、車では駐車スペースが限られており不便である点、大学は敷地は広いが周りが建物に囲まれている点などから回答者によって感じ方が異なった結果であると考えられる。2009 年の調査で「はい」の理由を答えた人は少なか

表 4. 問 3 への回答

選 択 肢	2008								2009								
	男	女	無回答	20代以下	30代	40代	50代以上	無回答	計	男	女	無回答	20代以下	30代	40代	50代以上	無回答
はい	84	93	6	90	70	19	4	183	38	11	11	22	21	6	11	60	
いいえ	8	2	1	2	6	3	0	11	9	5	0	6	5	3	0	14	
無回答	2	3	0	3	2	0	0	5	3	2	1	0	4	1	1	6	

表 5. 問 4 への回答

選 択 肢	2008							2009								
	男	女	無 回 答	20 代 以 下	30 代 40 代 上	50 代 以 上	無 回 計 答	男	女	無 回 答	20 代 以 下	30 代 40 代 上	50 代 以 上	無 回 計 答		
電車	4	6	0	6	2	2	0	10	6	4	0	6	4	0	0	10
市内電車	5	14	0	10	7	2	0	19	0	3	0	3	0	0	0	3
バス	2	2	0	3	0	1	0	4	0	1	0	0	0	1	0	1
自家用車	46	59	4	36	54	16	3	109	39	10	9	16	25	8	9	58
自転車	27	15	3	31	10	4	0	45	1	0	2	1	0	0	2	3
徒歩	16	13	0	17	10	1	1	29	3	5	1	7	1	0	1	9
その他、無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	0	1	0	3

ったが、JR 富山駅に近いことが指摘され、「いいえ」の理由としては、天候の影響や、「会場が広すぎて移動が大変」、「寂しい感じがする」などであった。男女間、および年齢群間の顕著な違いはみられなかった（表 4）。

問 4. ご自宅から会場まで、どのような方法で来られましたか？

この質問の回答（表 5）の中で自家用車を利用していた回答者は、2008 年にはのべ 216 人中 109 人、2009 年にはのべ 87 人中 58 人であり、いずれも多数が自家用車を利用していた。その割合は 2009 年のほうが有意に高かった（自家用車以外を合一、自由度=1、 $\chi^2=8.46$ 、 $P<0.01$ ）。これも会場の場所の違いが大きく影響したものであろう。両年ともに、自家用車の利用に男女間での明瞭な違いはなかったが、年齢群間では 30~40 代の利用が多い傾向があった。

「アースデイとやま 2009」のテーマにもなっていたように、アースデイの趣旨からは、自家用車への依存からできるだけ脱却するのが望ましい。しかし、富山のように公共

交通機関の発達が十分でない地域では、自家用車への依存は今後もアースデイのような環境啓発イベントの開催上の課題となるであろう。

問 5. ご自宅から会場までの距離はどのくらいですか？

この質問の各選択肢の回答者、および無回答者の数を表 6 に示す。2008 年と 2009 年で明確な差があり（5 km 以下の群を合一、自由度=4、 $\chi^2=18.24$ 、 $P<0.01$ ）、特に 1 km 以内から来た回答者が 2009 年は極めて少なかった。これは、住宅街の中にある五福キャンパスと、休日などに不特定多数の訪れる場所である JR 富山駅裏のとやま環水公園の、立地上の違いによるところが大きいと考えられるのと同時に、2009 年の自家用車の利用者が 2008 年より多かったことと整合的である。

問 6. 会場でどのくらいのお時間を過ごされます（過ごされました）か？

この質問の各選択肢の回答者、および無回答者の数を表 7 に示す。両年の間には、



有意差は認められなかった（4 時間以上の群を合一、自由度=4、 $\chi^2=4.30$ 、 $P>0.05$ ）。

表 6. 問 5 への回答

選 択 肢	2008 年	2009 年
<1 km	52	2
1~5 km	41	19
5~10 km	33	18
10~20 km	31	19
20~40 km	14	15
>40 km	26	6
無 回 答	2	1

表 7. 問 6 への回答

選 択 肢	2008 年	2009 年
<1 時間	43	12
1~2 時間	53	17
2~3 時間	52	28
3~4 時間	20	5
4~5 時間	11	3
5~6 時間	10	2
6~7 時間	8	7
無 回 答	2	6

問 7. 「アースデイとやま」には毎年違ったテーマがありますが、今回のテーマをご存知でしたか？

「はい」と答えた回答者は 2008 年には 34 人、2009 年には 38 人、「いいえ」と回答した人は 2008 年には 164 人、2009 年には 39 人、無回答はそれぞれ 1 人と 3 人であった。2009 年のほうが、回答者がテーマを知っている割合が有意に高かった（自由度=1、 $\chi^2=29.70$ 、 $P<0.01$ ）。その理由は明らかではないが、一因として、テーマはロコミなどの個人的な情報ではあまり伝わらず、

新聞報道のようなマスメディアではよく象徴的に取り上げられることから、2009 年は前年よりもマスメディアによってアースデイの情報を得ていた参加者が多かったこと（表 2）が関連していると考えられる。

問 8. ご自分は環境（問題）にどのくらい関心があると思われますか？ 2008 年、2009 年のいずれにおいても、「非常に関心がある」または「やや関心がある」と答えた回答者が大半を占め、「あまり関心がない」、または「まったく関心がない」と答えた回答者は非常に少なかった。しかし、両年間の比較では「非常に関心がある」が、2008 年の 199 人中 81 人（40.7%）に対して、2009 年には 77 人中 12 人（15.6%）と有意に少なかった（表 8；「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合一、自由度=3、 $\chi^2=20.96$ 、 $P<0.01$ ）。いずれの年も、回答に男女の間で明瞭な相違はみられなかった。年齢群間の比較では、「非常に関心がある」とした回答者が 2008 年には 20 代以下や 50 代以上において多く、2009 年にはいずれの年齢群においても少ない傾向がみられた。2008 年と 2009 年の間のこの違いの理由は明らかではない。

一般市民の環境意識を問う従来のアンケート調査において、しばしば若年層が高い環境保全意識を示すことがあり<sup>56</sup>、それは一般に、受けてきた教育や育ってきた時代背景のためと考えられる。今回のアンケートでは、いずれの年にもそのような傾向はみら

<sup>5</sup>総理府. 1993. 森とみどりに関する世論調査. 総理府、東京、87pp.

<sup>6</sup>貝沼康弘・横畑泰志・加藤輝隆・河野昭一・桂木健次. 2000. 富山市呉羽丘陵の保全に関する市民の意識調査. 野生生物保護 5 : 21-45.

表 8. 問 8 への回答

選 択 肢	2008							2009						
	男	女	無 回 答	20 代 以 下	30   40 代 上	50 代 以 上	無 回 計	男	女	無 回 答	20 代 以 下	30   40 代 上	50 代 以 上	無 回 計
非常に興味がある	35	42	4	41	25	15	0 81	5	2	5	1	5	1	5 12
やや興味がある	43	42	3	37	46	2	3 88	26	9	4	12	17	6	4 39
ふつう	9	13	0	4	13	5	0 22	13	5	3	10	7	1	3 21
あまり関心がない	6	1	0	5	1	0	1 7	3	2	0	1	4	0	0 5
まったく関心がない	1	0	0	1	0	0	0 1	0	0	0	0	0	0	0 0
無回答	0	0	0	0	0	0	0 0	3	0	0	0	1	2	0 3

れなかったが、従来の調査が一般市民の間から回答者を無作為抽出しているのに対し、本アンケートは環境啓発イベントの参加者を対象としているため、年齢にかかわらずある程度環境保全に対する関心の高い回答者が選択されているためであろう。

問 9. 「アースデイ」への参加以外に、日ごろ環境に関する活動をされていますか？

年間の比較では「はい」が 2008 年に対して 2009 年には有意に少なかった (表 9 ; 自由度=1、 $\chi^2=20.37$ 、 $P<0.01$ )。五福キャンパスでは大学生協による間伐材を用いた割り箸の活用やマイカップ自販機などの

様々な環境活動が行われており、一部にはその影響があるのかもしれない。「はい」と答えた回答者が行っていた環境活動は、2008 年には節電、エコバッグやマイ箸の使用など資源の節約に関するものが多く (63 人)、ごみの分別 (19 人) や車の利用の工夫 (17 人) がそれに次いでいた。問 8 に対していずれの年でも大半の回答者が「環境への関心がある」と答えたのに対して、2009 年の回答で「はい」と答えたのは 79 人中 21 人で、やはり「エコバッグの使用」(4 人)、「ごみの分別」(2 人)、節電 (2 人) などを行っていたがいずれも少なかった。この結

表 9. 問 9 への回答

選 択 肢	2008							2009						
	男	女	無 回 答	20 代 以 下	30   40 代 上	50 代 以 上	無 回 計	男	女	無 回 答	20 代 以 下	30   40 代 上	50 代 以 上	無 回 計
はい	49	58	7	49	49	13	3 114	13	4	4	4	10	3	4 21
いいえ	44	40	0	46	28	9	1 84	35	13	8	24	19	5	8 56
無回答	1	0	0	0	1	0	0 1	2	1	0	0	1	2	0 3

問 10、11、12 に関する分析は省略する。

果は、環境問題に関心を示すことと実際に行動することにはかなりのギャップがあることを示しており、同様の傾向は貝沼ら(前頁の脚注<sup>8)</sup>)でも示されている。2008年に「はい」と答えた女性がわずかに多いことを除くと、両年共に男女間、年齢群間で顕著な違いはなかった。

#### 4.2 出店(展)者および非参加者に対するアンケート調査の結果

ここでは、2008年に行った出店(展)者および非参加者に対するアンケート調査の結果を報告し、一般参加者との比較を行う(表10)。回答者数はそれぞれ17人、50人と少なかったことと、非参加者が全員大学生で10代および20代のみであったため、回答者の属性による分析は行わない。内訳は出店(展)者が男性7人、女性10人、20代1人、30-40代9人、50-60代7人、会社員5人、自営業9人、主婦1人、その他の職業2人、非参加者が男性45人、女性5人、10代31人、20代19人であった。

出店(展)者および非参加者はいずれも例数が少ないが、いずれかの回答傾向が一般参加者と異なる点として、1) 出店(展)者が「再び富山大学で開催されることになった場合、また出店(展)したいと思われませんか?」に対して「いいえ」および「無回答」の割合が高い、2) 出店(展)者は「ご自分は環境(問題)にどのくらい関心があると思われませんか?」に対して一般参加者より「非常に関心がある」と答えた者や日常的に環境活動を行っている者、2008年のテーマを認知している者の割合が高く、非参加者はその逆であった、の2点が挙げられた。1) の点から、対面式の調査では控え

めな回答になっているものの、五福キャンパスは出店(展)者にとってはあまり好適な会場ではなかったことが推察される。今後大学が社会貢献の一環としてこうしたイベントを積極的に受け入れていく意志を持つか否かは不明であるが、もしそのような意志を持つのであれば、大学が一般市民にとってより親しみの感じられる場となるような対応が必要であろう。2) は出店(展)者、一般参加者、非参加者の順に環境やアースデイへの関心が高いと理解され、自明のように考えられる。また、五福キャンパスでアースデイを開催した5ヶ月後であったにもかかわらず、非参加者の9割がアースデイを知らなかったのは、今後のアースデイとやまの大きな課題であろう。

#### 5. 摘要

2008年と2009年の「アースデイとやま」において一般参加者などを対象にアンケート調査を行った。その結果、1) 大学のキャンパスを会場とした2008年には個人的情報による学生や付近住民の参加が多くテーマの認知度が低い、2) 市内の公園を会場とした2009年にはマスメディアを情報源とする幅広い地域の市民の参加が多くテーマの認知度が高い、3) 2008年のほうが環境意識の高い参加者が多かった、4) いずれも自家用車での参加が多いなどの特性がみられた、などの結果が得られた。一般参加者と出店(展)者や非参加者との比較も行った。

表 10. 出店（展）者および非参加者へのアンケート結果（一般参加者との比較、抜粋）

質 問	選 択 肢	回 答 者 数		
		出店 (展) 者	非参 加者	一般 参加者
「アースデイとやま 2008」がある ことを、何でお知りになりました か？	マスメディア	0	—	23
	ポスター	1	—	18
	地域的なメディア	2	—	49
	個人的な情報	6	—	102
	その他	8	—	20
今まで「アースデイとやま」に一 般参加者として参加されたこと はありますか？	はい	5	3	—
	いいえ	11	47	—
	無回答	1	0	—
「アースデイとやま 2008」の会場 が富山大学でよかったと思われ ますか？	はい	9	—	183
	いいえ	3	—	11
	無回答	5	—	5
再び富山大学で開催されること になった場合、また出店（展）し たいと思われませんか？	はい	8	—	—
	いいえ	2	—	—
	不明	7	—	—
今回のテーマをご存知でした か？	はい	12	—	34
	いいえ	5	—	164
ご自分は環境（問題）にどのくら い関心があると思われませんか？	非常に関心がある	9	10	81
	やや関心がある	4	19	88
	ふつう	4	19	22
	あまり関心がない	0	1	7
	まったく関心がない	0	1	2
「アースデイ」への参加以外に、 日ごろ環境に関する活動をされ ていますか？	はい	13	7	114
	いいえ	4	43	84
	無回答	0	0	1
「アースデイ」についてご存じで すか？	はい	—	5	—
	いいえ	—	45	—

## 謝辞

アンケート調査にご協力いただきました、  
本田恭子実行委員長をはじめとするアース  
デイとやま実行委員会、ボランティアの  
方々に深く感謝申し上げます。調査の取り  
まとめにご協力いただいた、松村裕子氏  
にも厚くお礼申し上げます。最後に、本調  
査のアンケートにお答えいただいた多くの  
方にも深く感謝致します。

(受理 2012 年 3 月 9 日)